



学生献血推進協議会について

みなさまは今までに、「学推」という言葉を聞いたことはありますか。

献血といえば、日本赤十字社、献血を呼びかけている職員、献血推進団体のロータリークラブやライオンズクラブといったボランティアの方などをイメージされ、街中で見かけられることがあると思います。実はそうした団体の一つに、「学生献血推進協議会」と呼ばれる団体があります。この学生献血推進協議会（以下「学推」）は、大学生、専門学校生によって構成されており、都道府県ごとで形成され、活動がおこなわれています。主な活動としては、献血当日の呼びかけ、所属する学内において献血のセミナーなどを開催し、献血推進活動の一端を担っています。

また、そうした活動以外では、全国の学生代表が集まる会議が年度内に3回あり、会議内では「献血者を増やすにはどうすればよいのか」「学推メンバーを増やすには」などについて話し合われています。

中国四国地方でも中四国9県の学生献血推進団体で構成されている「中国四国学生献血推進協議会」があり、総勢1,013名の学生が所属しています。中国四国学生献血推進協議会においても若年層の献血者確保に向けて活動しており、今年度は「若年層に向けた取り組みをして定着化を目指す」というスローガンに基づき、様々な話し合いや取り組みが行われました。その取り組みとして、多くの人にも「学推」や「献血」について知ってもらうために中国四国学生献血推進協議会のTwitterアカウントを開設し、中四国内で行われる献血や献血イベントの情報発信が現在行われています。また、「KEEP on LOOP^(注)」活動である「県結隊」では他県の献血イベントに参加し、それぞれの県の取り組みについて学び、自県の献血活動を活性化させるきっかけとなっています。



若年層である学生が意見を出し行動することにより、彼らと同じ若年層に影響を与え、若年層の献血者増加につながることが期待されています。今後も学推の活動に期待がかかります。



(注) KEEP on LOOPとは…中四国献血学生ボランティアによる献血啓発のための取り組みで、2014年10月にスタートしました。「私たちの献血が命をつなぐ。」をスローガンに、広報活動やイベントなどを通して、献血の重要性や中四国全体における若年層（10代・20代）献血の推進などに取り組んでいます。

(写真上段) 左：中国四国学生献血推進協議会代表委員による施設見学 右：県結隊(キッズ献血)

(写真下段) 中国四国学生献血推進協議会研修会

(中四国ブロック血液センター献血管理課 児玉洋介)

学術情報・供給課職員の医療機関対応強化について ～ ONE TEAMを目指して～

血液センターでは、平成31年4月より受注から供給に至る業務と医療機関との対応を、より一層強化し効率的に行うため、「学術・品質情報課」の学術部門と供給部門を統合し「学術情報・供給課」となり、医療機関からの輸血に係る情報を日々課内で共有し対応することが求められております。

今回は、中四国ブロック血液センター及びブロック内各赤十字血液センターが実施している、輸血用血液製剤の受注業務全般に必要な輸血学を含む医学的知識や、医薬情報担当者(以下MR)研修内容についての課内研修を、いくつかご紹介させていただきます。

①中四国ブロック学術・供給月例web会議

ブロック内各血液センター及び供給出張所の学術情報・供給課職員を対象に実施しています。

- ・輸血情報及びお知らせの内容について教育訓練
各県血液センターMRが持ち回りで資料を作成し説明します(図1)。その後、各血液センターで業務の都合上参加できなかった職員に対して使用した資料を基に教育訓練を実施し課内で情報共有しています(表1)。
- ・中四国ブロック血液センター各課からの情報提供
学術的内容を含め最新の情報を共有します。最近のトピックスとしては「新規に登録されたKANNO血液型」について検査課から紹介されました。
- ・全国医薬情報担当者研修会の伝達研修
毎年本部主催で行われている研修会の内容についてMRがブロック内で資料を作成し伝達研修しています。

②香川県赤十字血液センター課内勉強会

香川県赤十字血液センター学術情報・供給課職員を対象に4年前から実施しています。

- ・県内医療機関輸血担当者(臨床検査技師)に輸血関連の内容についての講義をお願いし(表2)、その取り組みについては、令和元年第43回血液事業学会(仙台)にて報告しています。

添付文書の内容改訂内容

<改訂概要>

● [FFP-LR120, FFP-LR240, FFP-LR480共通]

本稿の発行添付文書の適用上の注意に「2～6℃で保存した本剤の急速大量輸血、新生児交換輸血等の場合は、体温の低下や血圧低下、不整脈等があらわれることがある」旨を記載しておりますが、融解後2～6℃で保存した本剤の加温による品質への影響を調べたところ、加温後も血液凝固因子活性等は維持され、安定であることが確認できたため、加温に係る注意を削除しました。

Q&A

Q: 融解して冷蔵保存後にクリオプレシビデートが析出した場合はクリオを融解するために再加温してもよいか?
A: クリオ析出条件下での再加温による凝固因子活性データは取得していない。最初の融解を十分に行ってください。

図1: 教育訓練資料一例

表1: 2019年度教育訓練実施内容

月	内容
4	新鮮凍結血漿の融解方法について(日本赤十字社医薬品情報Webサイト動画一覧に掲載)
5	「血液製剤の使用指針」の一部改訂について(輸血情報 1905-166)
7	新鮮凍結血漿-LR「日赤」480の包装形態変更のお知らせについて
8	・輸血用血液製剤との関連性が高いと考えられた感染症疫例-2018年-(輸血情報 1907-167) ・赤十字血液センターに報告された非溶血性輸血副作用-2018年-(輸血情報 1907-168)
10	・新鮮凍結血漿の添付文書改訂のお知らせについて ・輸血用血液製剤の取り扱いについて(輸血情報 1910-169)

表2: 勉強会実施内容

	内容
1	クリオの導入での血液使用量減少
2	小児輸血医療の実態
3	時間差別輸血オーダー



このように、血液センターでは様々な勉強会等を実施し情報共有及び知識向上に努めております。昨今の医療機関や血液センターを取り巻く環境は大きく変化しており、現状維持だけでは、安定した血液製剤の供給など様々な対応が難しくなっております。令和元年のラクビーワールドカップでも話題になった「ONE TEAM」を目指して医療機関と血液センターがタッグを組んで様々な問題に取り組んでいきたいと思っております。

(香川県赤十字血液センター学術情報・供給課 佐藤美津子)